

P3-231 疼痛性疾患に対する牛車腎気丸の有用性

○中西 美保¹, 岸田 友紀^{1,2}, 有光 潤介¹, 吉川 秀樹²,
萩原 圭祐¹

¹大阪大学大学院医学系研究科漢方医学寄附講座,

²大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科)

【目的】線維筋痛症の疼痛は、中枢神経の興奮亢進や過敏性が関与するとされ、中枢性感作症候群(CCS)に分類されている。CCSに対する漢方薬の臨床効果の報告は散見されるが、薬効機序に関する研究は少ない。そのため、本研究では中枢性感作をおこす代表モデルであるchronic constriction injury model (CCIモデル)を用いて、漢方薬の有用性を検討した。

【方法】C57/BL雄マウスの左坐骨神経を結紮したCCIモデルを作成し、4種類の漢方薬(牛車腎気丸、桂枝加朮附湯、麻黄附子細辛湯、十全大補湯)を投与した。鎮痛効果は、行動学的試験(Von Frey Test, Cold Plate Test, Hot Plate Test)で評価し、Shamと比較した。

【結果】全ての試験で疼痛行動が抑制されたのは、牛車腎気丸投与群(GJG群)のみであった。GJG群では投与後3週で、sham群と比較しt検定で有意差を認めた(Von Frey $p<0.0001$, Cold Plate $p<0.0001$, Hot Plate $p<0.05$)。また、この効果は、用量に依存しており、濃度の高いGJG投与で術後早期より強い鎮痛効果を示した。

【結論】GJGは、脊髓反射だけではなく上位中枢を介した疼痛行動も有意に抑制し、中枢性感作への効果が示唆された。今後、線維筋痛症の重症例においても、用量を増量調整することで、鎮痛作用を高められる可能性がある。

利益相反：無